

校内別室支援の充実と効果的な活用について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校1年生から不登校である。教育支援センターに週数日通室しており、途中から校内別室にも通うことができるようになった。現在は、教育支援センターと校内別室を併用しており、校内別室において他の生徒とコミュニケーションをとりながら前向きに学習や活動に取り組んでいる。

具体的な取組

○校内連携のための支援会議

週1回の連絡会議での生徒情報の共有に加えて、月1回「居場所づくり委員会」を行い、不登校傾向にある生徒に必要な支援を検討した。学期に1回「学校と家庭の連携事業」の推進会議を行いスーパーバイザーの大学教授が参加し、生徒情報や支援策、他校での好事例等を基に支援を見直した。

○きずなづくり

校内別室では、支援員や他の生徒と会話しながら給食を楽しんだり、午後は小集団でのレクリエーションを行ったりして人間関係づくりを図った。

学校全体では、よいところを見つけ、伝え合う「グッドプロジェクト」を行い、よりよい人間関係の構築を図ることができた。

○居場所づくり

生徒一人一人の課題を踏まえ、無理なく楽しく登校できるよう物的・心理的両面から環境調整を行った。在籍学級とのつながりを意識できるよう、担任との情報共有や教室の生徒とのコミュニケーションを大切にした。登校・通室のルールを決め、学習内容も相談しながら本人のペースで行えるようにした。

○校内別室の配置の工夫

不登校生徒が安心して校内別室をどの時間に登校しても周囲を気にせず利用できるように、昇降口外から直接入ることができる位置に校内別室を設置した。



成果

校内別室の利用により、学校への安定した登校につなげることができた。他の利用生徒との関係づくりが進むにつれ、学習に前向きな様子が見られるようになった。

課題

教育支援センターとの連携を充実させることで、対象生徒のニーズに合った学習支援を進めていく。対象生徒の状況に応じて、別室から教室の授業にオンラインで参加できるよう声をかけていく。